

第 60 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 材料分科会 議事録

1. 日 時: 2011 年4月 21 日(木)13 時 30 分～16 時 10 分
2. 場 所: 日本機械学会 第 5 会議室
3. 出席者: 木村(NIMS)、尾崎(東電)、伊藤(IHI)、南川(中電)、俣野(KHI)、南(NKK シームレス鋼管)、
北村(関電)
欠席者: 田村(パブ日立)、駒井(MHI)
代理人: なし
オブザーバ: 戸田(NIMS)
事務局: 海野(記)

4. 配付資料

- 60-1 . 第 59 回材料分科会議事録(案)
 - 60-2 . 材料分科会委員名簿
 - 60-3 . 第 55 回火力専門委員会議事録
 - 60-4 . 第 10 回材料専門委員会議事録
 - 60-5 . 第 56 回規格委員会議事録
 - 60-6-1. 規格委員会書面投票 No.148(基本規定)意見対応案
 - ー2. 規格委員会書面投票 No.149(詳細規程 材料分科会関連)意見対応案
 - ー3. 規格委員会書面投票 No.152(事例規格)意見対応案
- 参考1. 溶接分科会標準審議フロー(例)

5. 議 事

(1) 前回議事録確認

[資料 60-1]

前回議事録(案)について確認を行なった結果、特に指摘事項はなく議事録案は承認された。

(2) 分科会委員の承認

[資料 60-2]

駒井委員の退任の意向と清水氏及び戸田氏の推薦が報告され、挙手による採決を行った結果、出席委員全員の賛成が得られ、次回火力専門委員会に清水氏及び戸田氏を新任委員に推薦することが承認された。

(3) 火力専門委員会・規格委員会他報告

(3-1) 火力専門委員会・材料専門委員会・規格委員会報告

[資料 60-3～5]

第 55 回火力専門委員会、第 10 回材料専門委員会、第 56 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。なお第 11 回材料専門委員会は開催後間も無いため、木村主査(材料専門委員会幹事)より審議内容について口頭で報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 規格委員会にて規格が承認された後、日本機械学会として公衆審査を行うが、案内を従来、日本機械学会会誌上での会告により実施しており、2～3ヶ月のタイムラグが生じている。早期の規格発行を行うために、公衆審査案内を日本機械学会HP上で行うことが提案され、承認された。本件は、上位機関である標準・規格センター運営・企画委員

会にて承認されており、実運用が開始されることとなった。

- ・ 発電用火力設備規格案に関する規格委員会書面投票意見対応について規格委員会において審議された状況が報告された。
 - ・ 基本規定案は、技術的変更を伴う(テンパービードの部分を除く)ことから再投票とすることとなった。次回規格委員会にて審議。
 - ・ 詳細規程案(材料・構造・溶接各分科会関連)は、編集上の修正のみの方針であるが、意見対応案への各委員コメントを全数揃えることとし、その状況から可決若しくは反対意見を残したまま2次投票とするか、あるいは技術的変更を伴う修正は無い場合必要性は無いが、基本規定案と歩調を合わせて再投票とするかについて、次回規格委員会にて審議することとなった。
 - ・ 事例規格(高クロム鋼寿命評価式関連)は、次回規格委員会前に各委員によるメール審議にて可決・2次投票等の方針を決定し、進めることとなった。
- ・

(3-2) 日本機械学会法人格変更のお知らせ

[資料無し]

事務局から日本機械学会の法人格が3月1日より「社団法人」から「一般社団法人」に変更になった旨、報告した。

(4) 審議事項

(4-1) 発電用設備規格委員会書面投票意見対応案について

[資料 60-6-1,2]

発電用火力設備規格の規格委員会書面投票意見対応案について、意見を出された各委員からの確認コメントを確認し、さらなる対応案について審議を行った。

a. 発電用火力設備規格 基本規定(案)の意見対応案

各分科会共通の基本規定のうち、材料分科会が関与する部分について意見対応案の審議を行った。特記事項は以下の通り。

○吉田委員反対意見

(f): 構造分科会にて対応案を作成

(g): (修正案) 高温での許容引張応力値は、試験法に関する JIS 規格に規定された試験条件もしくは同等の条件下での材料特性によるものとし、腐食環境および異常な温度、応力条件、あるいはその他の設計条件は考慮しない。

○吉田委員保留意見

(d): 現状、対応案の通りとする。但し、STRT に1.1を乗ずる考え方について理由の記載された資料について、南委員が調査することとなった。

(e): (修正案) 高い方の値は当該温度における耐力2/3を超えているが、90%未満である。高い方の値は変形がある程度許容できる場合に適用することができる。ガスケットを使用したフランジ継手あるいは少しの変形でリークや作動不良を生じる箇所等のひずみが大きく影響するものの設計にはこれらの高い方の値を用いてはならない。

(f): 吉田委員反対意見(g)対応と同じ

b. 発電用火力設備規格 詳細規定(案)材料分科会関連の意見対応案

詳細規程(案)材料分科会関連の意見対応案について審議を行った。特記事項は以下の通

り。

○吉田委員反対意見

(a): 構造分科会, 溶接分科会に対応案を作成依頼とする。

○吉田委員保留意見

(b): 対応案4回目の通り

c. 発電用火力設備規格 基本規定 事例規格

事例規格(高クロム鋼の寿命評価式関連)の意見対応案について審議を行った。特記事項は以下の通り。

○吉田委員反対意見

(a): 対応案2回目の通り

(d): 伊勢田委員保留意見への対応で注記を追記している旨を説明し, 適用性については材料分科会委員として電力会社, プラントメーカーの委員が参加しており, 適用性についても確認している旨を説明する。

(e): 対応案2回目の通り

○吉田委員保留意見

(b): 対応案2回目の通り

(4-2) 規格案の改訂作業方法

[参考1]

前回, 溶接分科会の標準フローを紹介し, 今回検討することとしていたが, 規格委員会書面投票意見対応が収束した以降に審議することとした。

6. 次回開催予定

日 時: 2011 年 7 月 26 日 (火) 13:30～17:00

場 所: 日本機械学会 第 5 会議室

以 上